

スキンシップ概念の検討：和製英語の導入と定着

田中良子

はじめに

スキンシップという言葉は和製英語である。英語の辞書にはない。他方、スキンシップは、いろいろな場面で日常的に使われているポピュラーな言葉であり、現在はカタカナ日本語として国語辞典にも掲載されている（例えば『広辞苑』には、1983年の第3版以来掲載）。子育ての重要な概念として市民権を得ている言葉である。

本稿は、スキンシップという言葉が、いつごろ、どのようにして、日本で用いられるようになったのか、そして現在どの程度、どのような意味として女性に知られているのか、その調査結果の報告を目的とする。

1. スキンシップ概念の登場と変容

この項では、スキンシップという言葉の日本への導入とその意味の変遷の経過を明らかにする。

スキンシップ概念の心理学的検討については、すでに村野井（1983）が語源や育児書での扱われ方を考察している。そしてこの言葉の日本への導入において、児童・青年精神医学および保育学を専門とする著名な学者である平井信義氏のかかわりを指摘するとともに、日本の辞典にスキンシップという言葉が初めて掲載された年が1973年の『朝日現代用語事典』であるとしている。確かに平井自身がこの言葉を日本に紹介した当事者であることを認めている（平井、1976）。だが辞典初出は1973年ではなく、さらに以前に遡る。

わが国への紹介の経緯について平井自身の文章をつなぎ合わせると以下ようになる（平井、1976、1988）。

「……皮膚接触については1953年にオーストラリアのシドニーで開催された世界保健機構（WHO）主催の『6歳以下の子どもの精神衛生』という主題のセミナーに出席した著者が、たまたまグループ・ディスカッションの中でアメリカの婦人がスキンシップ（skin-ship）という言葉を使って職業婦人の母子関係について述べたものを、帰国後に紹介したことに始まる。このスキンシップは、はたらいている母親にとって、ひじょうに重要な意

味があるという体験談の中でその女教師によっていわれたものであり、彼女は母親の肌につけている衣類や帽子などでも、子どもの目につくところへ置いておく効果があると述べていた。…その後、ロンドンの小児病院を訪れたときに（1956年）、外来の待合室に、‘もっと子どもを抱きなさい！’と書いた紙がはりつけてあるのを見たときに、著者は“skinship”のことを思い出した。その小児病院は、精神衛生に力をいれており、子どもの心身症などについての研究もある。』

ここに述べられている平井のロンドンの小児病院訪問の2年後、1958年版の『現代用語の基礎知識』（自由国民社）に、スキンシップは「各界の最新語」として家事の項に現れる。この時にはスキンシップの項の執筆者の名前は挙げられていないが、執筆者一覧には平井信義氏の名前がある。1960年版以降、スキンシップの項の執筆者は平井となっている。内容は1958年版と同一であるので、1958年版の執筆者も平井と推定される。以後スキンシップという言葉は『現代用語の基礎知識』において現在までの約40年間、平井担当のもと育児用語として取り上げられてきている。

この『現代用語の基礎知識』は、1948年に創刊され、時事用語、学術常識語、外来語・略語等の「現代用語」をジャンル別に解説した事典で、毎年改訂増補して現代用語年鑑をつくるのが目標であるとされている。この分野でのわが国における先駆をなすものであり、現在も代表的な1冊である。なお、発行元の自由国民社によれば、1996年10月現在年間発行部数40万部、累積発行部数3000万部とされる。

要するに現在筆者の知る限り、辞典初出は平井がWHOのセミナーで耳にしたとされる1953年から5年後の1958年であり、この時以来スキンシップという言葉は現代用語として歩み始めた。こうした『現代用語の基礎知識』への登場から今日に至るまでの内容の変化、および同誌上の他の欄の中でのスキンシップの取り上げられ方をまとめたものを表1に示す。

『現代用語の基礎知識』におけるスキンシップ概念の内容は、次のように変化してきている。1958年には「皮膚関係という新造語である。母親の愛情が子どもに伝わるためには、接触関係を通じてでなければ成就されないということを意味した言葉。アメリカで強調されている。わが国ではスキンシップが多すぎて、子どもから独立心を奪っている傾向が強い」（表1 A）と紹介されたスキンシップは、1968年には「アメリカで強調されている。」が削除された。

1972年になると、当初の過剰傾向とは逆のスキンシップ不足の母親の存在とそれによる

表1 『現代用語の基礎知識』における「スキンシップ」という用語の変遷過程

発行年	記 載 内 容
1958年	A. スキンシップ (skinship) : 皮膚関係という新造語である。母親の愛情が子どもに伝わるためには、接触関係を通じてでなければ成就されないということの意味した言葉。アメリカで強調されている。わが国では、スキンシップが多すぎて、子どもから独立心を奪っている傾向が強い。(各界の最新語欄の育児の項 158頁に掲載)
1968年	Aの記述から、「アメリカで強調されている」が削除される。
1971年	上記に「最近はやや少ない母親がふえている」という文が追加される。
1972年	B. スキンシップ (skinship) : 皮膚関係という造語。母親の愛情が子どもに伝わるためには接触関係を通じてでなければ成就されないということの意味したことば。わが国では、おんぶや添え寝などスキンシップが多すぎるのが心配されていたが、最近はやや少ない母親がふえている。そのために、母親の愛情を知らず、異常行動を現わす子どももふえている。(育児用語欄の1111頁に掲載、平井信義担当) 同年の巻頭特集「現代の発想法と思考法を理解する100語」には、「スキンシップ：現代はフレンドシップではなくスキンシップ時代になった、とよく言われている。フレンドシップ(友情)が心と心の触れ合いならスキンシップ(肌情)は皮膚と皮膚の接触である。直接的に肌を触れ合わせることは安心できない。触覚時代の交わりは心でなく肌で、ということだろう。より原始的だが、これが先進国での大きな流れとなっている。」とある(竹村健一担当)。なお、1973年から1978年までは同一内容のものが「時代感覚用語」として掲載されている。 外来語欄(上野景福監修)には、「スキンシップ (skinship) : はだとはだの接触関係(母親の愛情が子どもとのふれあいを通して伝わることを強調したもの)」と記載されている。これは翌年の1973年まで掲載。
1975年	Bの「意味したことば」が「強調したことば」に変えられる。
1978年	一行事典「外来語の使い方間違い全集」の〈和製英語〉の項に「スキンシップ (skinship) : 日本では肌と肌の触れ合いの意に使われるが、英語にはそんな用法はない。」の記載がある。この記載は同年限り。
1982年	Bの記述に「方法は年代によって異なるが、思春期に入るまで必要である。」という文が追加される。
1983年	上記に「昭和28年のWHO(世界保健機関)のセミナーで、アメリカの一人婦人が言った言葉を、平井信義がわが国に紹介したことに始まる。英語の辞書にはない。」という文が追加される。
1987年	外来語欄(堀内克明執筆)に「スキンシップ(和製英語 skinship) : 特に母親と子供の肌の触れ合いによって生まれるという親密な交流。→和製英語。くま、人気は手軽にスキンシップや肌のぬくもりが楽しめ、あわよくば、この後でそのまま……のふくみも秘めたチークダンスに集まるのは当然の成り行きといえよう。(週刊読売1985. 11. 10)」の項がある。これは1991年まで掲載されている。
1990年	C. スキンシップ (skinship) : 皮膚関係という意味の造語。1953年のWHO(世界保健機関)のセミナーで、アメリカの一人婦人が言った言葉を、平井信義がわが国に紹介したことに始まる。英語の辞書にはない。母親の愛情が子どもに伝わるためには、接触関係を通じてでなければ成就されないということを強調したことば。わが国では、おんぶや添い寝などスキンシップが多すぎるのが心配されていたが、最近はやや少ない母親がふえている。そのために、母親の愛情を知らず、異常行動を現わす子どもも増えている。方法は年代で異なるが、思春期までは必要である。(育児用語欄の986項に掲載、平井信義担当)。同一内容記載が1996年現在まで続く。

子どもの異常行動の増加についての記述が加わっている。また、母親のスキンシップは母親の愛情そのもので、その不足は子どもの異常行動をもたらす(表1B)とされているように、登場時からはかなり記述が変化している。

1972年はまた、同誌上の他の2ヶ所にスキンシップが登場する。すなわち竹村健一氏によって「時代感覚用語」として取り上げられるとともに、巻末の外来語欄にも登場している。

この他1967年に『新聞語辞典』に登場しているし、72年の米大統領選挙候補者の運動作戦の1つをスキンシップ作戦として紹介しているものもある(『週刊現代イヤーブックス'73』)。この時期、スキンシップという言葉が外来語(英語)として本格的に普及しはじめていた様子が推測される。これと同時に母親におけるスキンシップ不足の指摘がなされていることも注目に値する。例えば、「アメリカなどでは、母親になっても職業を持っている女性が多く、『女性よ家庭に帰れ』などという言葉も出るほどで、この言葉もそうした意味から出たもの」(『新聞用語辞典1968年版』)などが見られる。

そして1978年、『現代用語の基礎知識』誌上の、「笑われないための外来語の使い間違い全集」という特別コラムの中で、スキンシップが和製英語であることが指摘される。ちなみにこのコラムの1977年版は「日本語の間違い全集」として組まれているが、和製英語として挙げられているもののなかにスキンシップはない。翌年の79年には、スキンシップは「時代感覚用語」欄から消えている。なお、国語辞典に和製英語という記載があるのは、旺文社『新総合国語辞典』(1978)が最初と思われる。

『現代用語の基礎知識』の育児用語欄における記述は、1982年に「方法は年代によって異なるが、思春期に入るまで必要である。」という文が追加され、翌83年には平井によるスキンシップ紹介のいきさつと、英語の辞書にはないことが追記されている。そして、1990年以降、表1.Cの記述となっている。

「あたかも英語であるかのようにして紹介された、英語の辞書にはないこの言葉が、明確な定義のないままに使われてきたために、さまざまな意味を付与されて用いられているのが実状である。三省堂『新明解国語辞典第4版』(1989)では「skinship=kinship(=親族)のもじりによる造語。特に日本で普及」と記載されているが、先述の平井の記述を考慮に入れると、一体誰が、いつ、どこで造語したのか、まったく不思議な話になる。

家事の新語として登場してから約40年を経た現在、一般にはどのように受け止められているのだろうか。特に、育児にかかわって用いられることが多いため、女性はどうように

受け止めているのかを明らかにすることは、男女共同参画社会が問題になっている現在、育児のあり方を考える上でも興味深い。

2. スキンシップ概念：いつ・誰から知ったか？

2.1 目的

スキンシップという言葉が家事の新語として登場してから40年近くを経た現在、よい育児を求める願いや努力とどうかかわってきたのかを明らかにする第1歩として、特に育児にかかわって用いられることが多いため、まずは女性を対象にして質問紙調査を行った(田中, 1995, 1996)。この項ではその結果を報告する。

2.2 方法

対象は短期大学女子学生 306名、幼稚園教諭85名、養護教諭51名、保健婦31名(ここではこの3群を母性的な専門職または母性職として一括する、合計 167名)、幼稚園PTA、女性セミナーなどの講演会受講者の一般女性161名の合計634名である。母性職および一般女性の平均年齢はそれぞれ、37.2歳(範囲20~60)、45.0歳(範囲25~69)であった。調査実施時期は、短大生群は1995年5月1日、他の2群は1995年5月~1996年3月であった。女性のライフスタイルをどう考えているか、およびスキンシップをどのように受け止めているか、について尋ねた質問紙(末尾資料参照)への回答を求めた。

2.3 結果

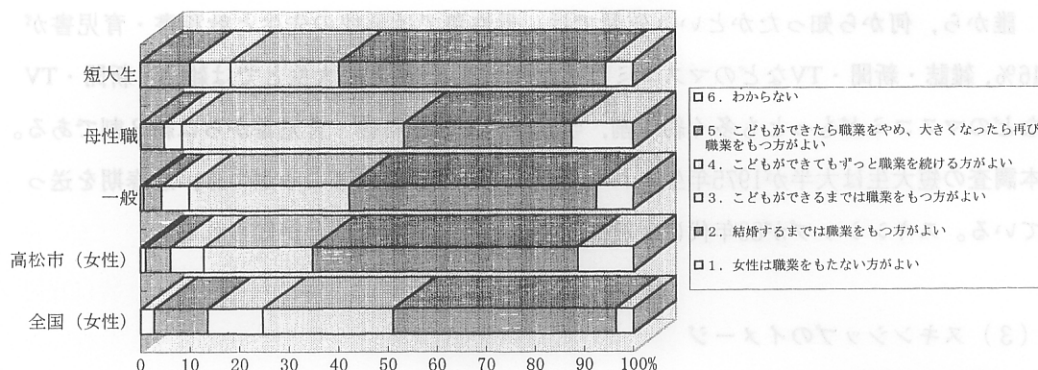
各質問項目に対する各群の回答(%)を算出して比較・検討した(数値は資料にも示している)。

(1) 結婚・職業・子どもなどのライフスタイル

ライフスタイルにかんする回答は以下の通りである。結婚については、母性職84%、一般80%、短大生88%が望み、欲しい子ども数は短大生の72%が2人、他の2群は5割が3人としている。

職業との関係については(図1)、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(育児期中断再就職型)を選ぶものが短大生54%、一般50%でもっとも多く、母性職では「子どもができてみずっと職業を続ける方がよい」(継続就業型)が第1位で45%となっている。他で行われた調査データによれば、女性の回答の第1位は

図1 女性の職業観



育児期中断再就職型で全国調査（総理府，1992）45.4%，高松市での調査（高松市，1994）54.0%，第2位は「継続就業型」で全国26.3%，高松市21.9%となっている。本調査の母性職の継続就業志向は，こうした一般的傾向よりもはるかに強いことがわかる。これには母性職が女性の専門的な職業であるということ，今回の回答者の大半が公務員であることが影響していると思われる。

結婚後の家事・育児と職業との関係については，「家事・育児を協力し職業を継続したい」が母性職で42%，一般29%，短大生22%，「できれば専業主婦として家事・育児に専念したい（選択肢4，5，7）」は短大生32%，一般22%，母性職15%，「家事・育児を女性の分担とし，その上で可能ならば職業を持つがよいとするもの（選択肢2，3，6）」は一般46%，短大生45%，母性職40%である。性別役割分担を受け入れて，家事・育児を第1の役割とするもの，およびその上で可能ならば職業を持つとするものを合わせると，短大生77.2%，一般67.7%，母性職55.2%となり，3群とも半数を越えている。家事・育児は女性の役割とするものは短大生にもっとも多い。一方，母性職は，家事・育児を分担・協力して仕事を続けるとするものと，家事・育児への責任を第1とするものとが拮抗しているという点で，他群と異なっている。

(2) スキンシップ：いつ，誰から知ったか？

全員がスキンシップという言葉を知っているという結果だった。知ったのはいつ頃かについては，高校生までにとしているのが，短大生95%，他の2群は約5割である。母性職では短大・大学で知ったとするものがもっとも多く36%，一般は11%，社会人になってか

ら知ったのは、一般26%、母性職8%である。

誰から、何から知ったかという質問では、母性職では学校の先生と教科書・育児書が46%、雑誌・新聞・TVなどのマスコミは2割である。一般と短大生とでは雑誌・新聞・TVなどのマスコミがもっとも多く約4割、学校の先生と教科書・育児書からは約3割である。本調査の短大生は大半が1975年生まれであり、80年代にものごころがつき、思春期を送っている。スキンシップが80年代に一般的な知識となっていたことが知られる。

(3) スキンシップのイメージ

一般的な出版物から取り出したスキンシップの用例を7つ挙げて、イメージに近いものを第3位まで回答してもらった。選択肢の出典は資料に示す。

第1位から3位までに受けた選択数の%およびその合計を各群ごとに図2に示す。もっともイメージに近いものとして、母性職と一般では6割が「心の土台になるものは、愛のみなもとでもあるスキンシップである。赤ちゃんのときに、母親が抱いて与えるスキンシップこそが、人の心の基礎になる（＜母と赤ちゃん＞と略す。）」をあげ、3位までには9割に達している。短大生ではわずかな差で「スキンシップが少ないと、愛情に飢え、情緒不安定から異常行動を起こすこともができる。一方、行き過ぎになると、いつまでも自立しない、過保護のこどもになるおそれがある（＜情緒安定法＞と略。）」が1位で＜母と赤ちゃん＞と並んでいる。「親子風呂はスキンシップを育て、裸の対話を通して親子が理解しあう場にもなりうる（＜親子風呂＞と略。）」は母性職と一般で5割あまり、「アメリカで唱えられた育児法。乳幼児の心身の安定のためには、母親の直接的な皮膚接触による愛情を必要とする（＜アメリカの育児法＞と略。）」は、母性職と短大生で4割が挙げている。その他、「部下の心をつかむためには、上司はスキンシップをもちい、心の交流を密にしなくてはならない（＜上司と部下＞と略。）」については、短大生が2割あまりで、他の2群の3倍以上を示している。「なで方によって犬は発情したり、嫌がってよけたり、安心しきって目を閉じたりした。こうしたことから、エロティックな愛撫と、一方的で思いやりのない触りかたと、正しいスキンシップとのちがいがわかった（これは後年、人間と交際する場合にも非常に役に立った。)<撫で方・触りかた>と略。」は各群とも1割前後、「今回は激戦が予想された。候補者は、徹底したスキンシップ作戦で選挙を戦った（＜選挙の握手作戦＞と略。）」については、各群2%どまりである。

図2 スキンシップのイメージ

図2-1 短大生

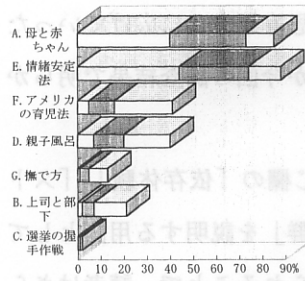


図2-2 母性職

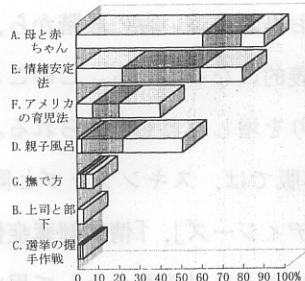
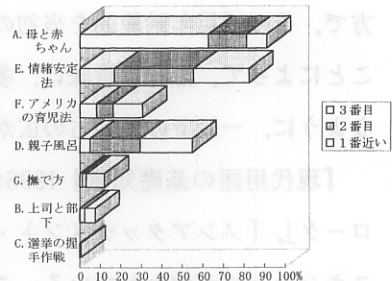


図2-3 一般



(4) スキンシップから連想する言葉

3位までの発生語数は、短大生群平均 2.7語、母性職群2.8語、一般群2.6語であった。3位までの連想語のうち、3群とも最頻語は「愛情・愛」で母性職50%、一般42%、短大生45%が連想している。2, 3位は、母性職では、「赤ちゃん」「母・母親」、4位に「ふれあい」が入る。一般と、短大生の2位, 3位はそれぞれ「親子」「ふれあい」である。それぞれの語を各群ともおおむね20%台の人が挙げている。スキンシップから連想するのは「愛情ある親子のふれあい」で、母性職では他の群に比して、「母と赤ちゃん」のニュアンスが強いといえよう。

3. おわりに

約50年間の『現代用語の基礎知識』の検討から、スキンシップという言葉は1958年に、アメリカの育児法として英語であるかのようにして日本に紹介されたことが明らかになった。以来、内容は変化しつつも、重要な育児用語として登場し続けている。そして現在、本報の調査対象者である18歳から69歳の 634名の女性すべてがスキンシップという言葉を知っていた。当初はスキンシップの過剰が日本の育児の問題であるとされていたのだが、1970年代以降はスキンシップの欠如が子どもの問題行動と結びつけて述べられるようになっていく。同誌上で1978年に和製英語であることが指摘され、他の項における現代用語としての扱いは変化した後も、育児の項ではあまり問題にならず、1983年に「英語の辞書にはない」ことが付記されて現在に至っている。平井は『現代用語の基礎知識』では1958

年から現在まで、スキンシップを「母親の愛情が子どもに伝わるためには（皮膚）接触関係を通じてでなければ成就されないということを強調したことば」と定義しているが、一方で、その適用年齢範囲を当初のおんぶや添い寝の段階から、思春期までに広げていったことによって、意味は曖昧に、多義的になっている。このことが今回の調査結果で明らかのように、一般での使い方の広がりが増したとも考えられる。

『現代用語の基礎知識』1996年版では、スキンシップと同じ欄の「依存体験」,「ストローク」,「ノンアタッチメント・ディーズ」,「情緒剥奪症候群」を説明する用語としてスキンシップが使われている。このように説明概念として用いられることで、読者はさらにスキンシップをほんとうらしく思うようになるだろう。なお、類書の『イミダス』（集英社、1996）では「スキンシップ：和製英語。①肌の触れ合いによって情愛をはぐくむこと。②育児法の1つ。親と子の心のきずなをつくり上げる、抱く、授乳、添い寝、おんぶなどの皮膚接触による相互作用をいう。③選挙運動の握手作戦。』、『知恵蔵』（朝日新聞社、1996）では「スキンシップ：和製英語。親子の肌の触れ合いによって生まれるきずな」と、いずれも＜外来語・略語＞の項に、それぞれ1ヶ所のみ記載されている。『現代用語の基礎知識』の育児欄とスキンシップの関係が特別なものであることがあらためて確認できる。

スキンシップ概念の普及には、専門的研究と結びつけて説明されたことも大きな役割を果たしているだろう。スキンシップをHarlow, H. F.の「子ザルの愛情」の研究に結びつけて説明している心理学の教科書もある〔例えば、泉（1980）、無藤他（1986）、水口（1989）など〕。心理学関係の辞・事典類では、英語として取り上げているものや〔松村（1972）、内山（1974、1978）、『新版・幼児教育の基本用語』（1974）、依田（1988）、山本（1991）など〕、和製英語として収録しているものがある〔黒田（1985）、国分（1991）、岡本（1995）〕。これらは、Harlowの他、Ribble, M. A.やBowlby, J., Klaus, M. H.らとの関連で説明されていることが多い。

育児書においては、平井の他、専門家からの育児アドバイスとしてスキンシップに触れられているものは数多い〔水野（1979）、久徳（1980）、小林（1988）、岡本（1996）など〕。なかには、スポック博士との育児対談としてスキンシップに触れているものもあるが（スポック・谷口、1987）、当然ながら「スポック博士の育児書」（Spock, 1985）には、スキンシップという語は見当たらない。

スキンシップが日本でこのように一般化したのは、もともと添い寝やおんぶのような日本の育児風土に合致したものがあつたからだと考えられる。子育てを大切に思う気持ちが

この言葉の普及を促進したことも間違いない。もう少し、スキンシップという言葉を検討することを通して、かけがえのない個人をこの世に送り出す子育てにおいて、何が大切な要因であるのか、心理学的に考えていきたいと思っている。

文 献

- (1) 石田勝正『抱かれる子どもはよい子に育つ』, PHP研究所, 1993, 4p.
- (2) 泉 ひさ『心理学入門』, ナカニシヤ出版, 1980
- (3) 内山喜久雄監修『児童臨床心理学事典』, 岩崎学術出版社, 1974
- (4) 内山喜久雄監修『知能障害事典』, 岩崎学術出版社, 1978
- (5) 岡本 暁「育児の主役はこども」, 『暮しの手帖62』, 暮しの手帖社, 1996, 124-129pp.
- (6) 岡本夏木・清水御代明・村井潤一監修『発達心理学辞典』, ミネルヴァ書房, 1995
- (7) 久徳重盛『母原病』, サンマーク出版, 1980
- (8) 黒田実郎監修『乳幼児発達事典』, 岩崎学術出版社, 1985
- (9) 『現代用語の基礎知識』, 自由国民社, 1948, 1954, 1957, 1958~1996
- (10) 国分康孝編『カウンセリング辞典』, 誠信書房, 1991
- (11) 小林 登『ふれあいの育児』, TBSブリタニカ, 1988
- (12) 『週刊現代イヤーブックス'73 現代新語事典』講談社, 1973
- (13) 『新版・幼児教育の基本用語』(幼児と保育増刊号), 小学館, 1974
- (14) 『新聞語辞典』, 朝日新聞社, 1967, 1968
- (15) 『総理府 男女平等にかんする調査』総理府, 1992
- (16) 『高松市 女性をめぐる意識と実態』, 高松市, 1994
- (17) 田中良子「スキンシップ概念の検討: いつ・だれから知ったか?」『日本心理学会第59大会発表論文集』, 1995, 108p.
- (18) 田中良子「スキンシップ概念の検討: 母性職はどう考えているのか」『日本心理学会第60大会発表論文集』, 1996, 108p.
- (19) スポック, D・谷口祐司『育児の質問箱』, 育児文化研究所出版, 1987
- (20) 平井信義(編著)『母性愛の研究』, 同文書院, 1976, 31p.
- (21) 平井信義「スキンシップ」, 平山宗宏(編)『現代こども大百科』中央法規, 1988, 762p.

- (22) 松浦理英子『優しい去勢のために』筑摩書房, 1994, 32p.
- (23) 松村康平・浅見千鶴子編『児童学事典』, 光生館, 1972
- (24) 水口禮治他編著『青年期までの発達心理学』, プレーン出版, 1989
- (25) 水野 肇『夫と妻のための育児学』, 中央公論社, 1979
- (26) 無藤隆・苧阪直行・細野純子『心理学とは何だろうか?』, 新曜社, 1986
- (27) 村野井均「保育にかかわる心理学概念の検討」, 『現代と保育』ひとなる書房, 1983, 205-219pp.
- (28) 山本多喜司監修『発達心理学用語辞典』, 北大路書房, 1991
- (29) 依田 新監修『新教育心理学事典(第4版)』, 金子書房, 1988
- (30) H. F. Harlow (1958) The Nature of Love. *American Psychologist*, vol. 12, No. 13, 673-685pp. 太田次郎訳「子ザルの愛情」日経新聞社1971年→『現代のエスプリNo. 115』1977所収
- (31) H. F. Harlow & M. K. Harlow (1962) Social Deprivation in Monkeys. *Scientific American* 207 (11) 137-146pp. 古浦一郎訳「サルの環境への適応」別冊サイエンス『不安の分析』101-111, 1972
- (32) Spock, B & Rothenberg, M (1985) *Dr. Spock's Baby and Child Care*. Pocket Books 高津忠夫・奥山和男監修『スポック博士の育児書』, 暮らしの手帖社

資料

I 一般に女性が職業をもつことについて、あなたはどのように思いますか。当てはまる項目を1つだけ選んで、番号に○をつけて下さい。

(%)

	短大生 (306名)	母性職 (167名)	一般 (161名)
1. 女性は職業をもたない方がよい	0.0	0.0	0.6
2. 結婚するまでは職業をもつ方がよい	10.1	4.8	3.7
3. こどもができるまでは職業をもつ方がよい	8.2	3.6	5.6
4. こどもができてもずっと職業を続ける方がよい	21.9	44.9	32.3
5. こどもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	54.2	34.1	50.3
6. わからない	5.6	12.6	7.5

II 結婚についてどう思いますか？当てはまる項目を1つだけ選んで、番号に○をつけて下さい。

(%)

	短大生 (306名)	母性職 (167名)	一般 (161名)
1. ぜひ結婚すべき・したい	42.2	30.5	21.1
2. ぜひというわけではないが、すべき・したい	46.1	53.9	58.4
3. 結婚しなくてもよい	10.1	12.0	16.8
4. 結婚すべきでない	0.0	0.0	0.0
5. その他	1.6	3.6	2.7

III 家庭を持ったらこどもは何人ほしいですか？当てはまる項目を1つだけ選んで、番号に○をつけて下さい。

(%)

	短大生 (306名)	母性職 (167名)	一般 (161名)
1. 0人	2.6	0.0	1.9
2. 1人	5.9	3.0	4.3
3. 2人	72.2	36.5	36.4
4. 3人	18.0	48.5	50.3
5. 4人以上	1.3	9.6	6.2
6. その他	0.0	2.1	0.6

IV 女性の結婚後の生活について、次の中から、あなた自身の考えに一番近いものを1つ選び、番号に○をつけて下さい。

(%)

	短大生 (306名)	母性職 (167名)	一般 (161名)
1. 家事・育児を協力しあって、お互いに職業を続けるのがよい	22.2	41.9	29.2
2. 女性は家事や育児と両立できる職業を選んで、続けるのがよい	7.8	4.8	6.8
3. 誰か助けてくれる人があれば、職業を続けてもよい	2.3	12.6	10.6
4. 専業主婦として家事や育児に専念するのがよい	1.3	0.0	1.2
5. 経済的に許せば専業主婦として家事や育児に専念するのがよい	19.0	7.2	6.2
6. こどもが小さいときは家事や育児に専念し、こどもが大きくなったら職業をもつのがよい	35.0	22.8	28.6
7. こどもが小さいときは家事や育児に専念し、こどもが大きくなったらボランティア、趣味など、自分のやりたいことをするのがよい	11.8	7.8	14.3
8. その他	0.7	3.0	3.1

V スキンシップという言葉を知ったことがありますか？

(%)

	短大生 (306名)	母性職 (167名)	一般 (161名)
1. ある	100.0	100.0	100.0
2. ない	0.0	0.0	0.0

スキンシップという言葉を知ったのは、

A. いつ頃ですか？

(%)

	短大生 (306名)	母性職 (167名)	一般 (161名)
1. 小学生の頃	35.3	16.2	10.6
2. 中学生の頃	50.7	19.2	25.5
3. 高校生の頃	8.8	13.2	15.5
4. 短大・大学生の頃	0.3	35.9	11.2
5. 社会人になってから	0.0	7.8	26.1
6. その他	4.9	7.8	11.2

B. 誰からまたは何からですか？

(%)

	短大生 (306名)	母性職 (167名)	一般 (161名)
1. 家族 (父・母・きょうだい・その他)	12.7	9.6	13.0
2. 学校の先生 (何の先生ですか?)	20.9	25.4	18.0
3. 教科書・育児書	9.2	20.4	15.0
4. 雑誌・新聞・テレビなどのマスコミ	38.9	21.0	36.6
5. その他	18.3	23.4	17.4

VI 以下の文章のなかで、スキンシップについて、あなたの考えているイメージに近いものから3つを選び、イメージ近いもの順に番号を入れて下さい (一番近いもの: 1, 次いで2, 3)。[出典を示す。調査票には不記。]

- A () 心の土台になるものは、愛のみならずともあるスキンシップである。赤ちゃんのときに、母親が抱いて与えるスキンシップこそが、人の心の基礎になる。[石田, 1993]
- B () 部下の心をつかむためには、上司はスキンシップをもちい、心の交流を密にしなければならない。[三省堂『新明解国語辞典』, 1989をもとに筆者が作成。]
- C () 今回は激戦が予想された。候補者は、徹底したスキンシップ作戦で選挙を戦った。[『週間現代イヤーブックス'73』, 1973]
- D () 親子風呂はスキンシップを育て、裸の対話を通して親子が理解しあう場にもなりうる。[学研『国語大辞典』, 1988]
- E () スキンシップが少ないと、愛情に飢え、情緒不安定から異常行動を起こすこともできる。一方、行き過ぎになると、いつまでも自立しない、過保護のこどもになるおそれがある。[ぎょうせい『現代実用外来語辞典』, 1985]
- F () アメリカで唱えられた育児法である。乳幼児の心身の安定のためには、母親の直接的な皮膚接触による愛情を必要とする。[講談社『日本語大辞典』, 1990]
- G () なで方によって犬は発情したり、嫌がってよけたり、安心しきって目を閉じたりした。こうしたことから、エロティックな愛撫と、一方的で思いやりのない触りかたと、正しいスキンシップとのちがいがわかった。(これは後年、人間と交際する場合にも非常に役に立った)。[松浦, 1993]

スキンシップのイメージ
一番近いもの

(%)

	短大生 (306名)	母性職 (167名)	一 般 (161名)
A. 母と赤ちゃん	39.9	61.1	62.7
E. 情緒安定法	43.8	22.2	16.8
F. アメリカの育児法	5.2	7.8	8.1
D. 親子風呂	7.2	2.4	5.0
G. 撫で方・触りかた	1.0	1.8	1.2
B. 上司と部下	2.0	0.0	0.0
C. 選挙の握手作戦	0.0	0.0	0.0

スキンシップのイメージ
一番～三番目までに挙げられた合計

(%)

	短大生 (306名)	母性職 (167名)	一 般 (161名)
A. 母と赤ちゃん	85.6	91.0	91.3
E. 情緒安定法	88.2	80.2	82.6
D. 親子風呂	40.2	50.9	54.6
F. アメリカの育児法	40.5	40.1	30.4
G. 撫で方・触りかた	12.7	7.8	11.8
B. 上司と部下	21.2	3.0	7.5
C. 選挙の握手作戦	2.0	2.0	1.0

Ⅶ スキンシップから連想することばを []の中に入れて下さい。

★例 東京→ [03] [都会] [有名人]

スキンシップ→ [] [] [] []
[] [] [] []

連想語の発生数

(語)

	短大生 (306名)	母性職 (167名)	一 般 (161名)
1 番目	301	164	152
2 番目	286	163	147
3 番目	248	146	135
一人当たり平均	2.7	2.8	2.6

第 1 連想語

(%)

	短大生 (306名)	母性職 (167名)	一 般 (161名)
1	愛情・愛 20.3	愛情・愛 20.4	親子 19.9
2	親子 18.3	赤ちゃん 16.8	愛情・愛 15.5
3	ふれあい 9.5	母・母親 10.2	赤ちゃん 11.2
4	赤ちゃん 6.9	ふれあい 7.2	子ども 8.1
5	母と子 3.3	親子 6.6	ふれあい 6.8

第 1～3 番目までの連想語

(%)

	短大生 (306名)	母性職 (167名)	一 般 (161名)
1	愛情・愛 45.1	愛情・愛 49.7	愛情・愛 41.6
2	親子 28.8	赤ちゃん 23.4	親子 24.2
3	ふれあい 19.0	母・母親 22.8	ふれあい 20.5
4	赤ちゃん 9.8	ふれあい 21.6	赤ちゃん 13.7
5	交流 8.2	あたたかい 13.2	子ども 12.4

A Study on the Meaning of "Skinship" : Its Birth and Growth in Japan.

Yoshiko Tanaka

Abstract

The word, "skinship", despite appearance, is not English and does not appear in any English dictionary. However, this word is used frequently in Japan to refer to the closeness and, particularly, the bodily contact between a mother and her baby. In this paper I wish to show that :

(1) The word, "skinship", first appeared in 1958 in a well known Japanese annual publication, "Gendai Yougo no Kisochishiki", which lists words in current use in Japan. It was as a new term describing mother and child relationships in the United States of America, and it was first introduced to Japan by Dr. Nobuyoshi Hirai, a famous psychiatrist specializing in childhood and adolescence. Since then, the term has gradually become common throughout Japan.

(2) All of the 634 women (aged 18-69) who returned my questionnaire recognized "skinship" as an important concept concerning a desirable mother-child relationship, and about 40% believe it to be an accepted term in American child-care terminology.

(3) Though not recognized by most translators from English to Japanese, the term, "skinship", has nevertheless been diffused throughout Japan by Japanese specialists discoursing on the studies of foreign researchers such as H. F. Harlow, M. A. Ribble, J. Bowlby and M. H. Klaus.

吉川 辰夫 著 吉川 辰夫 著

平野 正典 著 平野 正典 著

高松大学 高松大学

高松大学 高松大学

高松大学紀要

第 27 号

平成9年3月20日 印刷
平成9年3月20日 発行

編集発行 高松大学
高松短期大学
〒761-01 高松市春日町960番地
TEL (0878) 41-3255
FAX (0878) 41-3064

印刷 株式会社 美巧社
高松市多賀町1-8-10
TEL (0878) 33-5811